

丸山湿原群保全の会会報

(第 130 号)

発行日：平成 30 年 5 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住^{いまずみ})

E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

西谷では田植えのピークを過ぎ、奥手の米や酒米の植え付け時期になってきました。季節はまさしく「山笑う」時期。気温は高いような気がしますが、寒暖の差が激しい日が続いています。体調管理には十分お気を付けください。

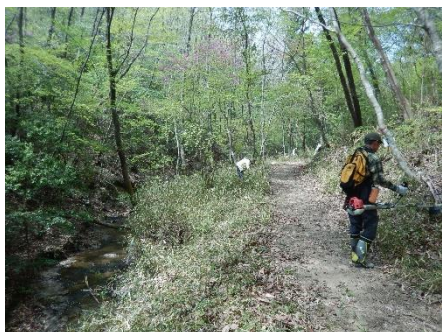
新名神開通、宝塚北 SA・スマート IC ができて車は確実に増えてきました。SA は地域交流型。外からも利用できます。休日にはイベントも開催とか。SA 外の駐車場に入りきれない車のためシャトルバスも運行されているようです。地域振興につながるいい刺激になればいいのですが。環境破壊につながるようなことのないように祈ります。

(今住 5 月 16 日作成)

活動報告 ★4 月 22 日 (日) 定期活動 7 名で活動

入口～竹筒ポスト平場のササ刈り、観察

駐車場から入口・平場のササ刈りや雑木整理は毎年の課題。正直なかなかうまくいかないのが現状で



入口付近の作業

す。前回までオブザーバーとして参加してくれていた里大 OB の方が正式入会。作業効率がぐんと UP しそうです。別の団体(櫻守の会)でも活動されているようで作業はお手のもの。しかも若い！真面目、男前！…褒め殺しです。(セクハラ問題も噴出しそう?)「俺はそう思う」(どこかの政治家談)はいけませんね。

もう一つうれしい情報！人博「共生のひろば」で興味を示してくれて、両生類セミナーにも参加してくれた高校生(加古川市)が入会してくれました。遠いので参加はなかなか大変。10 代の会員がいてくれることは大きな励みになります。皆さんもし見かけたらお声掛けをお願いします。

作業でした。作業効率が上がってきましたので、道横だけでなく平場の中までササや伸び始めた竹の刈り取りができるようになりました。過去何度か途中まで協働作業などでやっていましたが、刈り取りは久しぶりです。



平場の刈り取り整理

ここにはヒメカンアオイが多数あり、ギフチョウの繁殖場所になっています。丸山でギフチョウを見かけるのは竹筒ポスト周辺。もしくは駐車場近く。平場が通り道になっています。ちょうど産卵時期になりますが、ヒメカンアオイを刈らないよう注意しながらの作業です。(あまり奥はやってません。)ヒメカンアオイは湿り気と半日陰を好む植物。日が当たりすぎても消えてしまいます。さじ加減が難しい。これからヒメカンアオイとササ類等の刈り取り程度をどうしていくか考えていきましょう。まー適当にやっとならうまいくような気がしますが…。これではダメ？



ササの下から出てきたヒメカンアオイ

昨年、杉の木の下にツチアケビが出ていましたのでそのルートも確保したつもりです。ツチアケビが

出るかどうかは神のみぞ知るです。あ～気もち悪！（個人的な感想です。）5月の観察活動で別の場所を確認。紹介は後半で。

【4月22日に観察された動植物】

作業後観察。天気も良く「生きててよかった！」と思えるような陽気でした。山や湿原もまさしく生き生きと命が芽生えていました。



ウワミズザクラ枝ぶり

作業している平場ではもうウワミズザクラ（上溝桜）が咲いていました。サクラとは思えない姿。漢字で覚えると間違えます。気を付けて！もうマジックにかかったでしょう。私もいつも間違えます。昨年も紹介したと思いますがピン洗いのブラシのような花です。庭木に赤い「ブラシの木」というものもありますが。「ブラシの花」といってもおかしくありません。白ですが自然に溶け込んで意外に目立たない。平場だけで4本～5本生育しています。結構大きな木です。古事記にもハハカの木として登場するそう。占いに使う炭火がこの木だそうです。新潟では蕾を塩漬け（アンニンゴ）にして食べるそうです。薬効も抜群だそうで、中国の三蔵法師もこの薬（不老長寿の薬酒）を求めて旅に出たそう。經典求めてとっていました。異常に多くの經典を漢訳できたのもこの薬酒があったからなのか？話がずれた！



ウワミズザクラ花



ツクバキンモンソウ

（筑波金紋草）が多く咲いていました。ニシキゴロモの変種でこちらは日本海側に分布と調べれば載っていますが。これもいい加減な情報で武田尾「さくらの園」付近にはあるそうです。葉脈の色と花の色で同定。個体変異や雑種もあったりするのでややこしい。ここらでは大体ツクバキンモンソウでいいような気がします。キランソウの仲間。



ミヤマガマズミ

ミヤマガマズミ（深山蒲染）。これも調べてみると日本海側に多いとある



ヒメアギスミレ

が、ごくごく普通にある。ほかにコバノガマズミ、ガマズミが見られるが葉がツルっと光って見え先が細くとがっていればミヤマガマズミでしょう。自信がない場合はガマズミの仲間！これ OK！秋には赤い実がなります。これも薬酒になるそうです。疲労回復、利尿に効果あり。

トリガタハンショウツル、ヒメハギ（湿原内）、ヒメアギスミレやマルバアオダモ、他木本類の花が多数観察できました。丸山へのアクセス道、境野大池土手にはザイフリボクもきれいな花を咲かせていました。（ブログに画像あり覗いてください。「丸山湿原群保全の会」で検索するとヒットします。）

定期活動 ★5月14日（土）定期活動 5名で活動 晴 気温は昼頃26度まで上昇
定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	20	30
ハイキング	19	5
その他	2	1

来場者数 計77人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10:05	21.1℃		
視点場	11:15	23.3℃		
第3湿原	10:58	【23.1℃】	29.9 μS/cm	6.6
第1湿原	11:28	【28.5℃】	28.6 μS/cm	6.6
第2湿原	11:50	【27.1℃】	34.3 μS/cm	6.7

【湿原・活動の様子】

今回はまずデータから。電気伝導度、PH はほぼ異常なし。PH は本当に中性でいいのかといつも思いますが、このデータの検証はべつの機会に。妙なのは水温です。第1 湿原 28.5℃。第2 湿原 27.1℃。気温よりはるかに高い数字に。機械の不具合も考えられますが、何度も測りなおしています。時間が昼近く水面積も大きい湿原で温まったのかとても不思議でした。

今までのデータではこの時期の最高温度です。2015 年も6 月からは高めに出ていますがそれでも 25℃です。春先からの高温が地下水にも影響しているのでしょうか？湿原の動植物にはどんな影響があるのでしょうか。

季節が良くなり来場者数は増えています。いつも言っていますが、竹筒ポストに入れてくれる人は少数。特に道場方面からハイキングでやってくる人はまず入れないでしょう。それでも来場者数の変化は読み取れるのでいいと思います。もっとちゃんとしたものをという意見も

第3 湿原上のはげ山（ズリ）

あるので、今後も考えていきたいと思います。

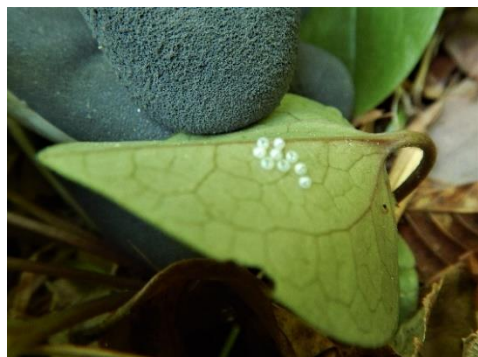
その竹筒ポストですが、今回もまた小さな小鳥の卵が。巣はなし卵のみ。托卵とも思えないし。どういうことでしょうか。ご存知の方はご連絡を。

今回はギフチョウの卵を狙っていました。前回刈り取りした付近のヒメカンアオイ。きっと産み付けられているに違いないと探索。

今まで探したことが無かった。ヒメカンアオイの葉の裏。幼虫になって葉をかじっているかもしれませんが、それも目印。しかもギフチョウの幼虫は卵の殻を食べず残します。薄緑の真珠のような卵。それを探します。探索時間なんと5 分！「ありましたよ。」と冷静な声。エライ簡単に見つかり拍子抜け。きっとほかにもたくさんあるに違いありません。が、探すも見つからず。



竹筒ポストから出た卵



ギフチョウの卵



ギフチョウは春先羽化。寿命は7 日から20 日とも。その間に交尾をし、子孫を残します。産み付けられた卵もダニなどの餌食に。自然界は厳しい。夏までに幼虫（毛虫）は4 回脱皮し。その後蛹（サナギ）に（完全変態）。約10 ヶ月の蛹生活後、春先に羽化。このサイクルです。とにかく蛹の期間が長い。やや湿った石の下などでひたすら春が来るのを待つそうです。どうなっているのでしょうか？

種類は違いますが、どこでも見られるウスバキトンボは、初夏に南国（大陸？）から日本へ飛んできて、卵→ヤゴ→成虫を繰り返し北上していきます（不完全変態）。夏の甲子園でフワフワ飛んでいるトンボです。それとは大違い。原始的なチョウだから？だから美しい。「春の女神」といわれるのでしょうか。ウスバキトンボが汚いと言っているのではありませんよ。ウスバキトンボは丸山でも見られます。寒さに弱く、北上する割に子孫を来年につなぐ



ツチアケビ新芽（アスパラガス？）

（参考）ギフチョウ 4 月 29 日玉瀬で撮影
ことはできません。毎年南国から飛んできて増え、そして死んでいきます。温暖化で越冬するようになるかは？？ですが。

平場で昨年見られたツチアケビはまだ確認できず。道に戻りイノシシの荒した道を進んでいくと、オレンジ色のアスパラガスが！出ましたツチアケビです。しかもでかい！多い！イノシシの攪乱でどう見ても生えるわけないというような場所です。まだ花の咲く前で

何ともいえない姿。菌従属栄養植物はいわば寄生しているのですから、ヒナノシャクジョウやホンゴウソウ（昨年見つけたやつ）のように小さいイメージです。しか～し！このツチアケビは大きい。初めて見た会員は「なんで？」と素直な感想を漏らしていました。この実を見るとときにはさらに「なんで？」と思うに違いありません。私は初めて見たとき、唐辛子が捨ててあると思いました。何度も書いているような…。しかし見栄えがし面白い植物（ラン）です。薬酒になります。なんでもなるな～。

その後湿原へ、枯れ草の景色が緑のじゅうたんを敷いたように変化。緑が美しい。しかし考え



第1湿原 緑が美しい

てみるとこの緑の中心となっているのは**ヌマガヤ**。また今年も日光の争奪戦が繰り広げられているのだとしみじみ思ったのは私だけでしょうか。冬場の刈り取りにも思いをはせて…。しかし光に輝き眩しいほどです。目立った植物は見当たりませんが、**モウセンゴケ**や**イシモチソウ**がかなり大きくなってきました。イシモチソウはまもなく開花。かなり本数も増えてきていて、群落を作ってくれるのを期待しています。



モウセンゴケ

ます。新しい観察台からはちょっと見えないか。地下に芋（球根？）を作る多年草の食虫植物です。モウセンゴケとは仲間。第1湿原脇の水たまりには前回紹介した**ホソミオツネントンボ**が産卵をしていました。前回未記載種と紹介しましたが、よく調べると「アオイトトンボ属の一種」と記載あり。ホソミオツネントンボはアオイトトンボ属です。このことだったのでしょ。



イシモチソウ



見えますか？ハッチョウトンボ♀



ニワハンミョウ

な**ハンミョウ**（**ニワハンミョウ**）＝「道教え」に導かれ終了。ニワハンミョウはすぐ藪に。人生藪の中です。ぜひ皆さん活動日以外でもお越しください。ハンミョウが道案内してくれますよ。



シロシタホタルガ幼虫

総会予告

日時 2018年6月9日（土）13:00～16:00

場所：宝塚市立自然休養村センター2F TEL：0797-91-0253

住所：宝塚市大原野字南宮2番地の7（消防署と郵便局の間です。夢プラザのほぼ向かい。）

総会資料は近々発送します、当日ご持参ください。参加の有無（委任状）をご返信ください。

次回活動日 5月27日（日）歩道付近ササ刈り 6月9日（土）定期調査・総会

6月24日（日）作業 7月14日（土）定期調査